



広域基幹林道の瀬川山山頂付近を走る選手ら=14日、香美町村岡区

過酷80キロの山岳路 282人ゴール目指す

氷ノ山山系トレイル50マイル

兵庫県最高峰の氷ノ山(1510メートル)山系エリヤを舞台にした「O.S.J.氷ノ山山系トレイル50マイル」(同実行委員会主催)が14日、香美町村岡区宿の兎和野高原野外教育センターを発着する距離80キロの過酷な山岳コースで開かれた。282人が出場し、147人が完走。樋山邦治選手(28)=愛知=が9時間39分10秒のタイムで優勝した。

同大会は山岳マラソンの全国転戦レースの最終戦(11戦)。高低差約1100㍍のコースは香美町村岡区、小代区、新温泉町、養父市、さらに鳥取県の若桜町、鳥取市国府町にまたがっており、ほとんどが林道や車が進入できない登山道となつ

ている。運営は各市町関係者がスタッフとして協力した。

上山高原、林道野間線を走り、再び瀬川山に

入ってゴールを目指し

た。道に落ち葉が積もっていた場所では、滑つて転倒する選手もいたが、小代区の佐坊、新屋などではスタッフや地区民らが「がんばれ」と、選手に声援を送り、励ました。

「今回のコースはとても厳しかったが、楽しいレースだった。来年

0時までの選手が有効で、暗い林道を懐中電灯などの明かりを頼りに走る選手の姿もあった。優勝した樋山選手は「今回のコースはとても厳しかったが、楽しいレースだった。来年もこのコースに挑戦したい」と話していた。(前嶋英雄)